

令和6年度病害虫発生予報第7号（11月予報）概要表

令和6年10月24日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 麦類の播種前防除対策</u>	/	/
(1) コムギなまぐさ黒穂病		
(2) 黒節病（オオムギ黒節病、コムギ黒節病）		
(3) オオムギ縞萎縮病		
(4) オオムギ斑葉病		
(5) シロトビムシ類		
<u>2 きゅうり（夏秋栽培）</u>		
(1) ベと病		並
(2) うどんこ病		多
(3) 褐斑病		多
(4) 退緑黄化病		多
(5) 黄化えそ病		やや多
(6) コナジラミ類		多
(7) アザミウマ類		多
<u>3 ブロccoli</u>		
(1) ベと病		並
(2) ハスモンヨトウ		並
(3) シロイチモジヨトウ		多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>4 ねぎ (秋冬栽培)</u>		
(1) さび病		並
(2) 黒斑病		多
(3) ベと病		並
(4) シロイチモジヨトウ		多
(5) ネギアザミウマ		並
(6) ネギハモグリバエ		並
<u>5 いちご (本ぼ)</u>		
(1) うどんこ病		並
(2) 炭疽病		並
(3) ハダニ類		並
<u>6 茶</u>		
(1) カンザワハダニ		やや少
(2) ツマグロアオカスミカメ		やや少

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和6年度病虫害発生予報第7号（11月予報）

令和6年10月24日
埼玉県病虫害防除所

1 麦類の播種前防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
コムギ なまぐさ 黒穂病	<ul style="list-style-type: none"> ・種子伝染するため、種子更新を行うとともに種子消毒を実施する。 ・土壌伝染する場合もあるため、前作で発生したほ場では作付けを控える。 ・オオムギとコムギでは、なまぐさ黒穂病の病原菌が異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
黒節病	<ul style="list-style-type: none"> ・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に、適期防除を実施する。 ・自家採種種子を使用する場合は、必ず種子消毒し、播種適期内で播種時期を遅らせる。
縞萎縮病	<ul style="list-style-type: none"> ・播種後の土壌水分が多く、地温が高いと感染が増大するため、排水対策を実施し、播種適期内で播種を遅らせる。 ・オオムギとコムギでは、縞萎縮病の病原ウイルスが異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
オオムギ 斑葉病	<ul style="list-style-type: none"> ・発生後に使用できる薬剤はないため、播種前に種子消毒を実施する。 ・遅まきは発生を助長するため、適期播種に努める。
シロトビムシ 類	<ul style="list-style-type: none"> ・発生後に使用できる薬剤はないため、常発地では、播種前に種子消毒を実施する。 ・遅まきは発生を助長するため、適期播種に努める。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

2 きゅうり（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○10月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・ハウス内を多湿にしないよう、温湿度管理に注意する。 ・着果負担による樹勢低下は発生を助長するため、注意する。
うどんこ病	多	○10月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・やや乾燥した条件により助長されるため、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・着果負担による樹勢低下は発生を助長するため、注意する。
褐斑病	多	○10月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・着果負担による樹勢低下は発生を助長するため、注意する。
退緑黄化病	多	○10月中旬の発生量：多 □11月のコナジラミ類の予想発生量：多（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
黄化えそ病	やや多	○10月中旬の発生量：並 □11月のアザミウマ類の予想発生量：多（+）	
コナジラミ類	多	○10月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い（+）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・タバココナジラミは退緑黄化病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
アザミウマ類	多	○10月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（+）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・ミナミキイロアザミウマは黄化えそ病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

3 ブロッコリー

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
ハスモン ヨトウ	並	○10月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫の若齢期に薬剤散布を行う。
シロイチモジ ヨトウ	多	○10月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・8月8日に発表した「注意報第7号」(参照3)を参考に適期防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫の若齢期に薬剤散布を行う。
【共通注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照3：注意報第7号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-7.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	・肥切れは発生を助長するため適切な施肥管理に努める。
黒斑病	多	○10月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	
べと病	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	・多肥条件は発生を助長するため注意する。
シロイチモジヨトウ	多	○10月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・8月8日に発表した「注意報第7号」（ 参照3 ）を参考に適期防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ネギアザミウマ	並	○10月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
ネギハモグリバエ	並	○10月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
【共通注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照3：令和6年度病害虫発生予察注意報第7号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-7.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 いちご（本ぼ）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
炭疽病	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・被害株は抜き取って適切に処分する。
ハダニ類	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（+）	・保温開始前後（ミツバチ等導入前）に防除を徹底する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

6 茶

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
カンザワハダニ	やや少	○10月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・急増することがあるため、発生状況に注意し、休眠期に入る前に薬剤による防除を実施する。
ツマグロアオカシミカメ	やや少	○10月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・常発園や多発した園では、産卵のために成虫が茶園に再飛来する10～11月に防除を行う。越冬卵密度が低下し、翌年一番茶芽の被害軽減効果がある。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

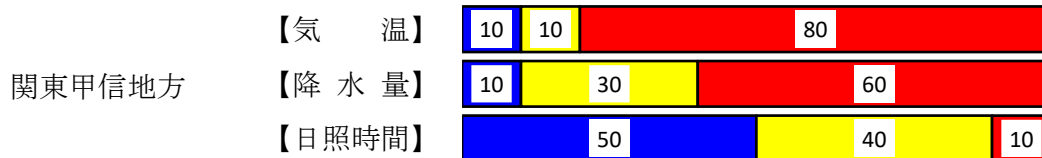
(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和6年10月24日発表)

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/longfcst/103_00.html)

<予報のポイント>

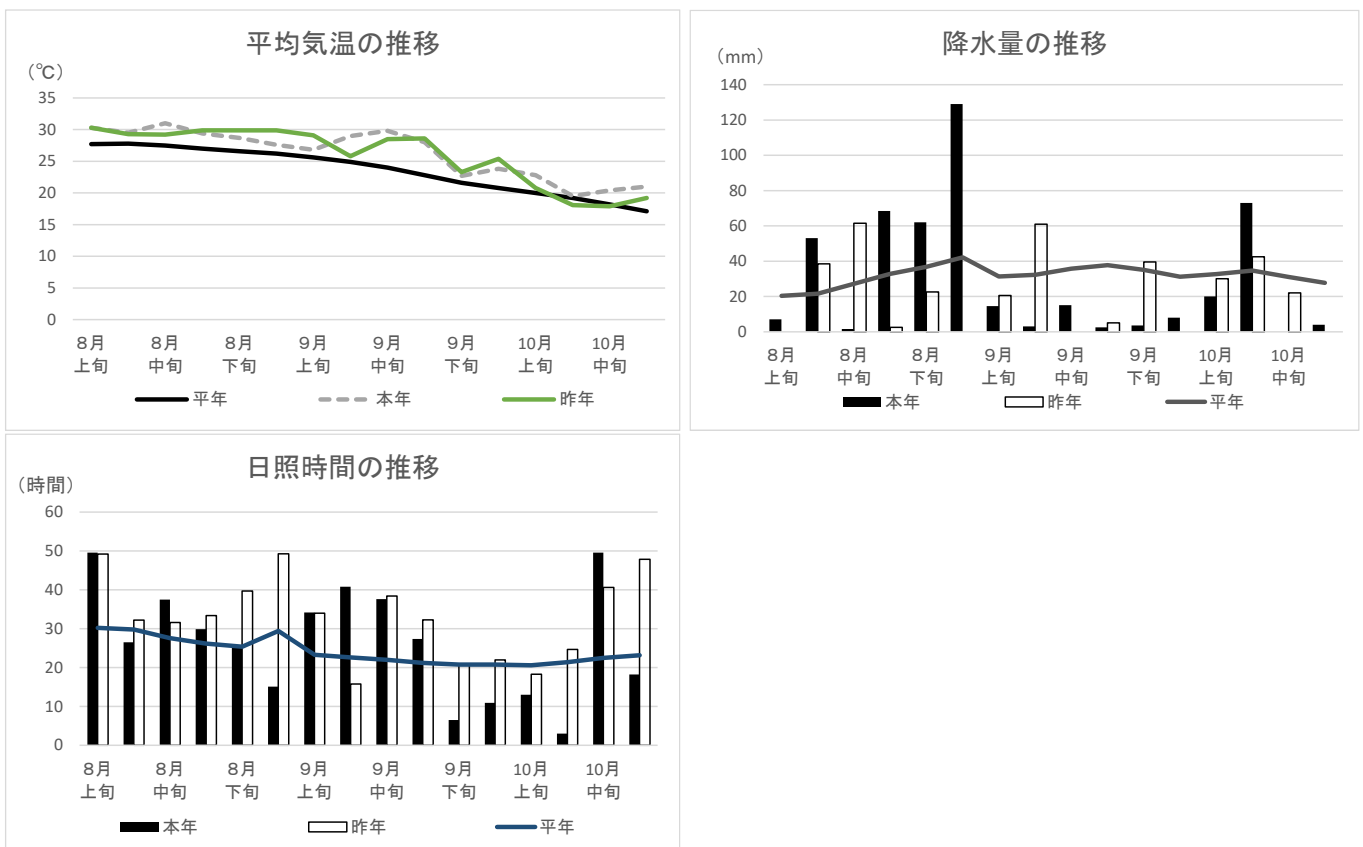
- ・ 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。期間の前半は、かなり高くなる見込みです。
- ・ 低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>